

はじめての金融入門講座

金融とは何か？

こうし ありまひでつく
講師：有馬秀次

1. 金融とは何か

金融という用語は、広義では「**お金の流れ**」という意味に、狭義では「**お金の貸借**」という意味に捉えられます。

広義の金融 お金の流れ

お金の流れとは、モノを売り買いする取引や、お金を貸し借りする取引(金融商品のやりとり)に伴って、**お金が移転**していくことです。

お金の流れは、**モノや金融商品の流れ**を円滑にします。

金融
広い意味では

お金の流れ



金融商品とは、市場で取引されている金融資産(手形や債券など)のことです。



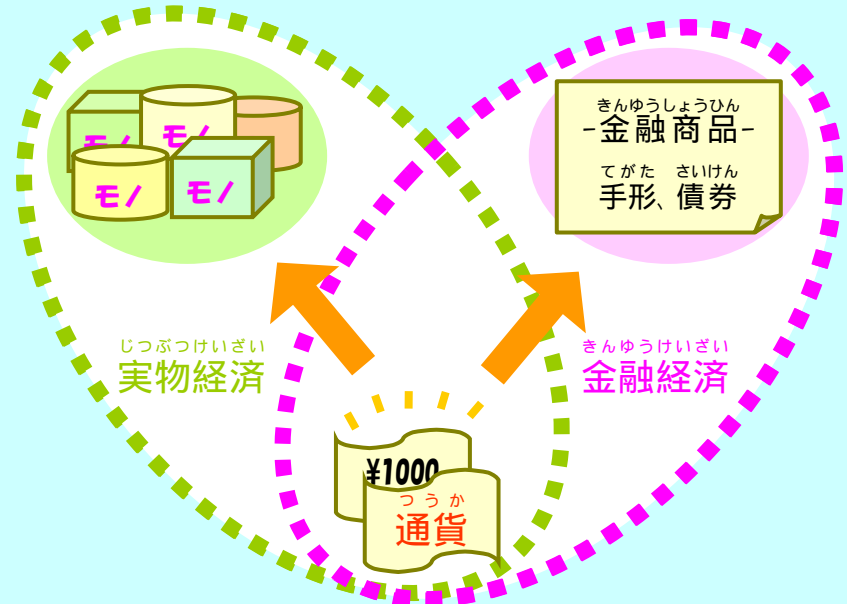
実物経済とは、生産と消費の循環活動のことです。

モノとお金を交換する売買取引として捉えられます。

金融経済とは、お金を融通する活動のことです。

金融商品とお金を交換する貸借取引として捉えられます。

お金の流れは、モノや金融商品の流れを円滑に！



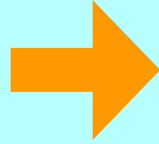
広義の金融 = 実物経済と金融経済のお金の流れ

きょうぎ きんゆう かね たいしゃく
狭義の金融 お金の貸借

かね たいしゃく かね あま かね た かね
お金の貸借とは、お金の余っているところからお金の足りないところへ、お金
ゆうずう
を融通することです。

いちじてき かふそく ちょうせい かね か か たいしゃくとり
これは、一時的な過不足を調整するためのお金の貸し借り、すなわち貸借取
ひき いみ
引のことを意味しています。

きんゆう
金融
せま いみ
狭い意味では



かね たいしゃく
お金の貸借

かね たいしゃく きんゆうしょうひん かね こうかんとりひき
お金の貸借は、金融商品とお金の交換取引です。

かね か か とりひき ぎんこう かね か さいけん かぶけん こうにゆう
お金を貸し借りする取引(銀行からお金を借りる、債券や株券を購入す
る、預金するなど)に伴って、手形、債券、株券、預金証書という金融商品
よきん ともな てがた さいけん かぶけん よきんしょうしょ きんゆうしょうひん
が移転していきます。

かね たいしゃく きんゆうしょうひん なが いみ
お金の貸借は、「金融商品の流れ」を意味します。

きんゆう かね たいしゃく
金融(お金の貸借)のはたらき

かね たいしゃく きんのう ばいばい けいざいかつどう かっぱつ
お金の貸借がうまく機能すると、モノの売買(経済活動)が活発になります。

きんゆう けいざい はってん やくわり は
金融は、経済を発展させる役割を果たしています。

きんゆう
金融



けいざい はってん
経済の発展

かね たいしゃく きんゆうしょうひん なが いみ
お金の貸借は、金融商品の流れを意味する！

きんゆうけいざい かつどう
金融経済の活動は、
きんゆうしょうひん かね
金融商品とお金の
こうかんとりひき とら
交換取引で捉えられます。

きんゆうしょうひん
-金融商品-
てがた さいけん
手形、債券

きんゆうけいざい
金融経済

¥1000
つうか
通貨

きょうぎ きんゆう きんゆうけいざい かね なが
狭義の金融 = 金融経済のお金の流れ

かね たいしゃく きんゆうしょうひん なが
= お金の貸借(金融商品の流れ)

2. 貨幣の役割 (広義の金融: お金の流れ)

わたしたちの暮らしは、モノ(財)やサービスの交換取引で成り立っています。

交換取引は、経済の基本です。この交換取引を支えているのが**貨幣(広義の金融: お金の流れ)**です。

貨幣(広義の金融: お金の流れ)は、「**場所を越えての交換取引**」の実現と、「**時間を越えての交換取引**」の実現という2つの役割を果たしています。

「**場所を越えての交換取引**」の実現

貨幣(お金)が存在しなかった時代には、人々は**物々交換**で品物のやりとり(交換取引)を行っていました。

物々交換とは、自分が所有する品物と、他人が所有する品物をお互いに取りかえることです。

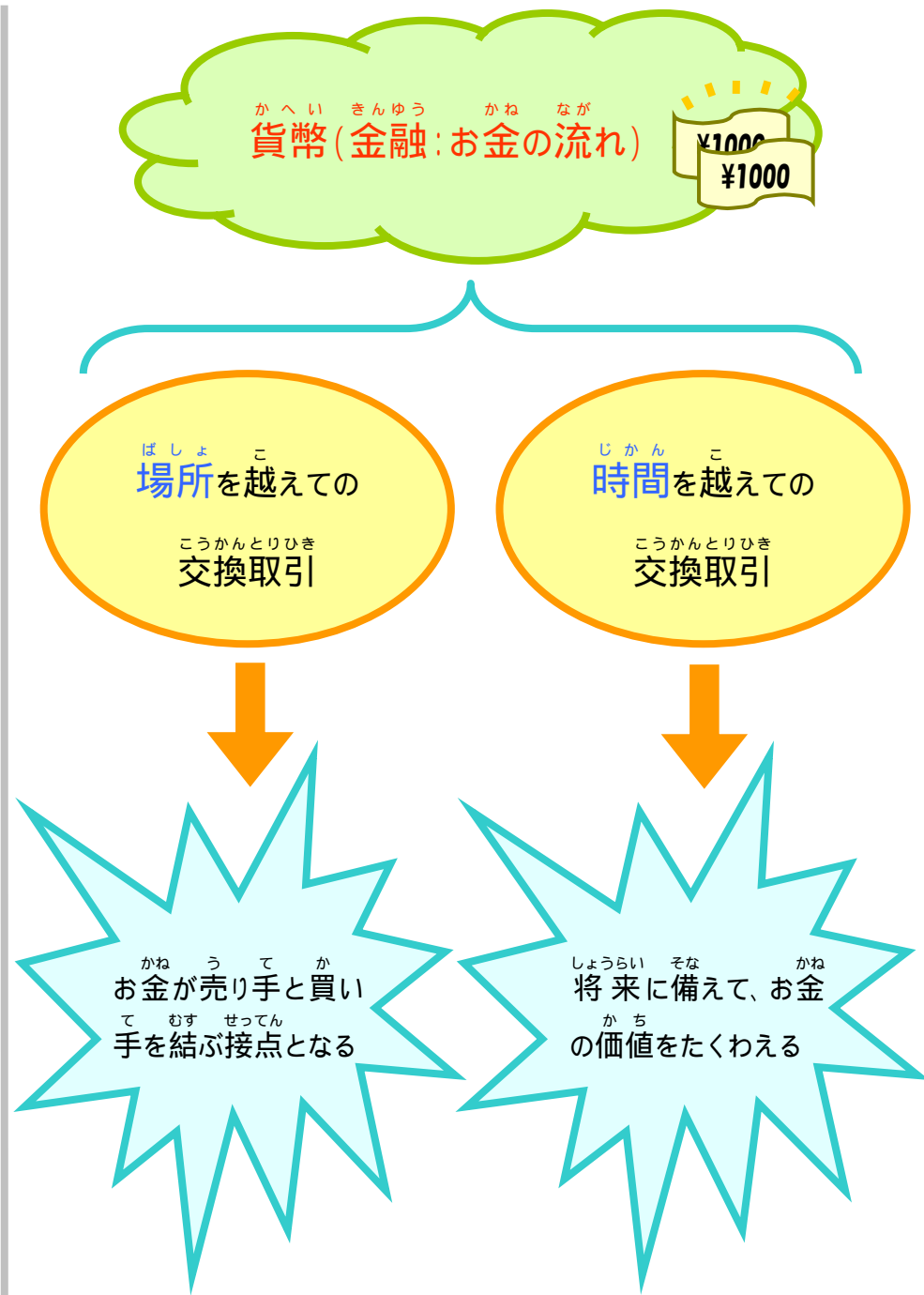
物々交換は、かなり不便な取引です。取引相手が自分の欲しい物を持っているとは限らず、交換の機会が限定されていたからです。

この不便さを解消したのが**貨幣(お金)**です。

お金は、異なったニーズを持つ買い手と売り手との間を仲立ちし、さまざまな交換取引を可能にしました。

売り手と買い手が、地理的に遠く離れた場所においても、**お金が両者を結ぶ接点**となることで、交換取引が行えます。

すなわち、貨幣(お金)が「**場所を越えての交換取引**」を可能にしています。



「時間を越えての交換取引」の実現

物々交換は本当に不便な取引で、交換の機会が限定されるだけでなく、

時間という問題点もありました。

やりとりされる品物は、時間がたつて古くなると、腐ったり壊れたりして、価値がなくなってしまう。

そのため、交換する品物を手に入れたら、できるだけ早く都合のよい取引相手を見つけなければならず、交換できる期間が限定されていました。

この不便さを解消したのも貨幣(お金)です。お金は、貯蓄することで将来に備えてお金の価値をたくわえることができます。

お金は、品物と違って腐ることも壊れることもありません。貯めておけば、いつでも好きなときに、好きな品物と交換(購入)することができます。たくさん貯めておけば、高価な品物と交換(購入)することもできます。

すなわち、貨幣(お金)が「時間を越えての交換取引」を可能にしています。

経済と金融(お金の流れ)の関係

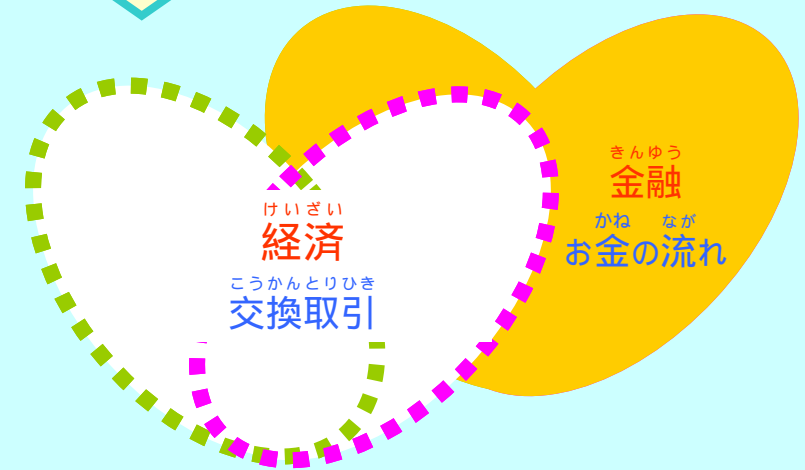
経済と金融は、表裏一体の関係にあります。

経済(交換取引)の裏には、常に金融(お金の流れ)が存在しています。つまり、お金の流れを見れば、経済を知ることができます。

金融(貨幣の流通)は、経済(わたしたちの暮らし)を支える大切なシステムなのです。

経済の基本は、交換取引です。

経済の裏側には、金融(お金の流れ)の面があります。



お金の流れから、

経済を捉えることができる！

3. 貨幣の役割(狭義の金融:お金の貸借)

金融(お金の貸借)は、お金が出て行く時点と入ってくる時点の時間差を解消して、売買取引(実物経済)を成立させる役割を果たしています。

「時間を越えての交換取引」の実現

企業は、モノ(商品)を生産するために、機械設備、原材料、労働力を購入する必要があります。

企業が使ったお金は、生産したモノが売れることにより回収されます。しかし、売上が現金化されるまでに、かなりの時間がかかります。

この時間差を穴埋めする役割を果たしているのが金融です。

企業は、お金を借り入れることができれば、手元に資金がなくても生産(事業)を円滑に進められます。売上から得たお金で借入金を返済すれば

よいからです。

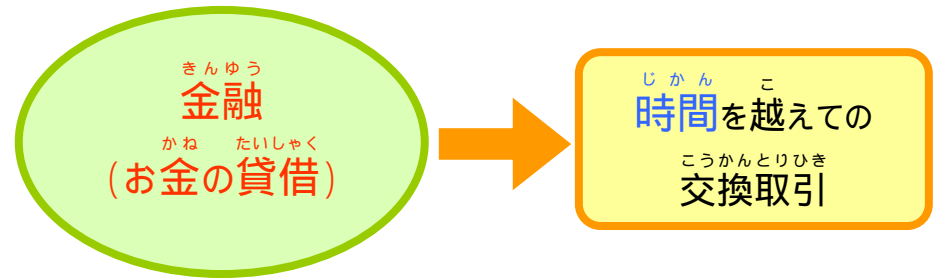
すなわち、金融(お金の貸借)が「時間を越えての交換取引」を可能にしているのです。

お金の貸借は金融商品で!

お金の貸借は、たとえば両親や友達からちょっとだけ借りてすぐ返すような場合には現金でやりとりしますが、ここでは、企業や銀行を相手に貸し借りすることを想定しています。

お金の貸借は、金融商品(手形、債券など)を使って行われます。

金融商品がお金の流れを作っています。



お金の貸借で、わたしたちの暮らしは便利!

企業ばかりではありません。わたしたちの暮らしの中においても、しばしばお金が足りなくなることがあります。このような時に、ちょっとお金を借りることができれば、とても便利です

クレジットカードやローンなどを利用することで、今はお金がないけれど後で支払う...という取引が実現します。

また、最近では、SuicaやPASMOなどの、乗り物(鉄道やバスなど)や買い物などで利用できる、支払い機能をもつICカードも頻繁に利用されるようになってきています。

これは、あらかじめ入金した(先に支払った)電子マネーによって、乗り物や買い物で生じた代金の支払いをスムーズに行うものです。

また、銀行預金から直接引き落とすタイプのデビットカードも利用されはじめています。

